

－転移・再発乳がんに対する HRQOL スコアと予後との探索的解析－

臨床試験の事後解析で様々な質問票を用いた QOL データが生存の独立した予後因子であることが報告されている。

システマティックレビューを含め様々なエビデンスから、ベースライン HRQOL スコアが癌患者の生存予測を改善する事が報告されている(1)。乳がん患者においてはベースラインの QOL が進行乳がんの予後を予測し、身体的な健康、痛み、食欲不振などの QOL データが進行乳がん患者の生存の重要な予後因子であったと報告されている。また、ベースラインの身体的な健康とその変化が生存と関連していたとの報告もある。しかしこれまで転移再発乳癌患者を対象に異なる QOL 調査票の有用性について比較した検討はなされていない。

【目的】

そこで、本研究では EORTC QLQ-C30 と EQ-5D-3L を用い HRQOL が継時的に測定された SELECT BC 試験のデータを 2 次利用し、進行・再発乳がん患者の予後予測において以下 2 つの検討を行った(1)人口統計学的、臨床的因子に加え、HRQOL の追加的な意義を検証する事を目的に Cox 比例ハザードモデル、C 統計量、continuous NRI(cNRI)を用いて探索した。(2)また、EQ-5D index のベースラインの絶対値と EQ-5D index 変化量の結果を比較し、どちらがより予後予測において適切な QOL 指標となるのかについて比較検討する為に、EQ-5D の継時データから QOL の変化量を算出し同様の解析を行った(解析途中)。

【参考文献】

1. Montazeri A. Quality of life data as prognostic indicators of survival in cancer patients: an overview of the literature from 1982 to 2008. Health Qual Life Outcomes. 2009 ;7:102.